

# 2017年公開気象講演会 「大雨災害」に備える

日時：2017年5月28日（日）13:30~17:00

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟4階

- 積乱雲の発生・組織化と大雨の発生メカニズム  
加藤 輝之（気象庁観測部）
- 気象庁が発表する大雨に関する防災気象情報  
高橋 賢一（気象庁予報部）
- テレビと防災情報  
木原 実（気象予報士/防災士）
- 市町村の防災気象情報を活用した防災・減災対応  
出水田 正志（龍ヶ崎市役所）
- パネルディスカッション  
司会：津口 裕茂（気象庁気象研究所）

主催：日本気象学会 教育と普及委員会

後援：一般社団法人日本気象予報士会

参加費：無料

参加登録：[WEBページ](#)から登録をお願い致します

## 積乱雲の発生・組織化と大雨の発生メカニズム

加藤 輝之（気象庁観測部）

大気状態が不安定なときに複数の積乱雲が繰り返し発生し、連結して組織化することで大雨はもたらされます。本講演ではまず、不安定な大気状態とはどのようなものなのか、その不安定の中でどのように積乱雲が発生・発達するのかをわかりやすく説明します。また、土砂災害などを引き起こす”集中豪雨”や都市部を中心に内水氾濫をもたらす”ゲリラ豪雨”とも呼ばれる“局地的大雨”について、過去の実例を挙げて、その形状や発生メカニズムも踏まえて解説します。

## 気象庁が発表する大雨に関する防災気象情報

高橋 賢一（気象庁予報部）

気象庁が発表する防災気象情報について、大雨に焦点を当てて、どのような情報を段階的に発表しているか、またその情報をどの様に活用して欲しいと考えているか、出し手側の思いを紹介します。また、今年度の出水期に予定している改善についても簡単に紹介します。

## テレビと防災情報

木原 実（気象予報士/防災士）

インターネットの普及とともに携帯電話の機能も劇的に進化し、もはや人類の第二の脳ともいえるスキルを持つものもあらわれています。また、パソコンやタブレットでも防災情報をいつでも簡単に確認できる時代になりました。そんな時代にテレビの地上波は相変わらず同じ時刻に同じキャスターが天気予報や防災情報を伝え続けています。今の時代にこの制約の多いテレビの地上波での防災情報の伝え方を考えます。

## 市町村の防災気象情報を活用した防災・減災対応

出水田 正志（龍ヶ崎市役所）

龍ヶ崎市において最近5年間の特性ある風水害対応を教訓に、市町村の責務である住民の生命、身体を災害から保護するかを具現してまいりました。また、気象庁の気象予報士派遣モデル事業により、防災担当職員は気象庁から発表される防災気象情報を理解する能力が飛躍的に向上しました。これらを踏まえ、当市において防災気象情報等（インフォメーション）を災害発生予想（インテリジェンス）に分析検討し、更なる防災・減災対応としていかに具現していくかその方向性について紹介していきます。